



2024年4月1日発行
1952年5月13日発刊
毎月1日(月刊定価1部60円)
(購読料はYMCA会費に含まれています)
公益財団法人名古屋YMCA
〒464-0848
名古屋市千種区春岡1丁目2番7号
TEL052-757-3331 FAX052-757-3332
●発行人 中村 隆
●編集人 名古屋YMCA広報

YMCA News

4

2024年度 名古屋YMCA 年間聖句

「見よ。なんとという幸せなんとという楽しさだろう。
兄弟たちが一つとなってともに生きることは。」

詩編133篇1節 聖書 新改訳2017版

一つとなって



日本同盟基督教団シティリジョイスチャーチ牧師 **榊原 康成**

なんとという幸せと、133篇は最初に私たちが一つとなることの幸せと楽しさこそが最高なのだと言われていました。今、この幸せ楽しさをもっと広げて伝えていきたいと願っています。今は断絶ということが叫ばれています。このような時だからこそYMCAに集う私たちは一つとなっていること、一つとなっていくことの幸せを表していきたいのです。

この詩篇が歌われたとき、人々は各地に離散して生きる悲しみや困難を経験していました。ですから神様の恵みによって集められて同じ食卓を囲みともに生きる喜びこそが大切で本当の幸せだと知っていたのです。美食や豊かな食事をすることが楽しみなのではなく、家族やさらには自分とは違う価値観を持つ人のことも兄弟と呼び、一緒になって食卓を囲み、語り合い、協力して生きる時に幸せを感じ、楽しみを経験することを教えてくれているのです。

自分と他人との違いは時に私に不快な思いを抱かせるかも知れません。しかしそれこそが一つになること、生きていることの証しであり、それを経験した先にこそともに生きる幸せ楽しみがあるのです。

断絶と他者との関係を切って捨てるのは簡単ですが、その先には幸せも楽しみもありません。他者を断絶した相手ではなく、大切な隣人、兄弟として目を向けて交流したいものです。私たちが、心一つにして大切な働きをする時には楽しみ喜びは増していきます。互いに認め合い、協力して一つとなって仕えていく時に

はその働きは豊かな実を結びます。

詩篇には聖書の神様とみことばを真ん中にして集まることが語られています。YMCAも聖書が示す愛を真ん中にして働きを進めています。そしてYMCAという群れとその働きに繋がっている私たちは一つとなっているのです。

YMCAには幼い子どもたちを愛して育てるプログラムがあります。青年たちへのプログラムもあれば、青年たちがボランティアとして活躍する場もあります。職員も一つになって活躍しています。長い間支えてこられた年配者もたくさん集っておられて、生き活きと活躍しておられます。その方たちも先輩から働きと隣人に示す愛を引き継いでこられたのです。そうやって一つに繋がって働きが継続し広がってきました。

今、全年代、全方位に向かって働きを広げようという取り組みをしています。YMCAはこれまでもこれからも聖書の示す愛を真ん中においてその働きを進めていくのです。新しいことは既に始まっています。私たちは断絶などと叫ぶ人ではなく、その働きを通して一つとなって生きる楽しみを表していく人となっていきましょう。

YMCAには幼子から青年、年配の方にまで表す愛があり、そこから届けられる大切な働きがあります。こうしてYMCAに集っている私たちは一つとなって生きることの楽しみを自ら味わいながら発信しつつ、その働きを通して幸せと楽しみを広く大きく表して社会に実を結んでいきましょう。

フィリピンフレンドシップキャンプ報告

フィリピンとの「つながり」

2024年2月19日から1週間、名古屋YMCAコースボランティアリーダーとしてフィリピンフレンドシップキャンプに参加しました。主に活動を行ったアルバイ州レガスピ市には自然が多く、マヨン・ボルケーノという美しく大きな火山が私たちを出迎えてくれました。このキャンプに参加する前、私はYMCAを通じて海外の人々と関わりをもてることに大きな期待を抱くとともに、本当に現地の人と英語だけでつながることができるのか不安もありました。しかし、その不安も感じないほど、YMCAの方々や訪問先の学校の子どもたち、先生からすばらしいおもてなしを受け、多くの学びを得ることができました。

特に驚いたのは、3日目に訪問した小学校です。私たちが教室に入ると、多くの子どもたちが「ようこそフィリピンへ！」と頑張って日本語で書いた画用紙を掲げながら笑顔で歓迎してくれました。その小学校で私たちは劇を用いて日本語指導を行い、書道や折り紙、けん玉など日本の文化を紹介しました。さらにフィリピンでも人気のある大人気アニメ『ワンピース』の主題歌を日本語と一緒に歌いました。子どもたちが一生懸命、日本語のローマ字を読みながら、笑顔で歌っている姿を見て、元気をもらえると同時に、日本の文化を伝え、知ってもらおうということに喜びを感じました。

また、日本で教育を学んでいる身として、フィリピンの教育格差について興味をもちました。移動中、ストリートチルドレンが車の窓を拭いてお金をもらっている場面や、家族でハンカチを売って食べ物を買っている場面に遭遇しました。一緒に行動をしていたYMCAの方に質問してみたところ、現地で話されてい



るビコル語以外に英語とタガログ語という二つの言語を話すことができなければ、高校に進学する機会すらもつことができない現状を教えてくださいました。コロナ後さらに格差が広がり、学校に行けず、読み書きができない子どもたちを救うため、私と同じコースボランティアリーダーがキャンプを通じて勉強を教えているそうです。今回のキャンプの中で、海外の状況を目の当たりにし、視野を広げ、国際問題に関心をもつことができました。加えて、環境保全のためのサンゴ礁の植え付けや火山の噴火によって仕事を失った人々のために始まったうちわ作りなど、多くの経験をさせていただく機会にめぐまれ、実際に現地の人々とコミュニケーションをとることで、他人事ではなく、当事者意識をもち、自分には何ができるのか考えるきっかけになりました。

このフィリピンフレンドシップキャンプの出会いを大切に、私たちがフィリピンとの架け橋として「つながり」を途切れさせることなく、これからもよりよい関係を築いていきたいと思えます。

(いくらリーダー 近藤 梨々香)



〈キャンプ日程〉

- 1日目：マニラ到着
- 2日目：市長との面会、ビコル大学見学
- 3日目：小学校での文化紹介、高校での文化紹介
- 4日目：サンゴの植え付け体験、うちわ作り
- 5日目：高校でのダンス大会見学、高校での料理会
- 6日目：ホームステイ先で観光等、クロージングセレモニー
- 7日目：アルバイ観光

連載① 体操の意義

『子どもと体操』について3回の連載を始めることになりました。今回は体操の特性と子ども(幼児や小学生)にとっての意義を紹介します。

体操の技はマット、鉄棒、とび箱を使って逆さになったり、回転したり、ぶら下がったり、手で跳ねたりと非日常的な動きなので、器用な子でさえ直ぐに思い通りに動くことはできません。慣れない体勢で自分の体をコントロールしなければならず、何度も試行錯誤が繰り返され、技ができるようになるのに多くの時間がかかります。だからこそ技ができた時の達成感としての喜びはとても大きいものがあるのです。

ところが、体操の練習では他のスポーツと異なりゲームや競争でおもしろさを味わうことはありません。練習はほとんど目標とする技ができることや上手にできることに集中します。つまりどのように体を動かせば課題をクリアできるのか、技ができるようになるのかということに常に注意が向けられます。指導者の説明や指示、上手な子の動きの観察等多くのことがわかり、動きのわずかな違いを察知したり、振り返って自分の動き方を考え直したりすることも学びます。動きの習得に特化した練習だからこそ、技を習得していく過程では、他のスポーツの基礎にもなる全身的器用さが高められるだけでなく、感覚的理解を思考によって新たな認識へと発展させる精神的働きも徐々に活性化されていくのです。

子どもたちが体操の技に取り組むことは一昔前と比

べると益々意義深くなってきました。以前から子どもの体力や運動能力の低下は問題視されてきました。最大の要因は子どもの外遊びの減少による多様な運動経験の欠如にあります。低年齢期に基礎的な動きが十分に身につかないと予期せぬ怪我や事故が起こります。骨折した子の話は珍しくありません。事故が原因で遊具が撤去されることもかつてはなかったことです。遊びによって多くの動きを身につける機会が少なくなったと同時に、遊びの環境の変化がもたらす弊害は随所に現れてきました。そこにコロナ禍が一層拍車をかけたのは周知のことでしょう。ゲーム依存、スマホ依存の子が増加したことはほんの一例にすぎません。

子どもを取り巻く状況がより深刻化している今日、心身の健全な成育のために子どもが積極的に体を動かせる環境に関心が高まると共に体操の必要性も増してきたと言えるでしょう。

名古屋YMCA体操教室アドバイザー
福井大学名誉教授

三上 肇氏

全日本体操競技選手権大会
個人総合優勝、ユニバー
シアードメキシコ大会で
の日本選手団主将を経験。
現在は、体操教室にて若い
リーダーの指導力向上に務
めている。



総主事コラム

秋篠川

奈良の自宅の散歩道は秋篠川の源流付近です。源流といっても住宅地にある大淵池から流れ出る小さな流れに、丘陵地帯の沢筋の水が集められ一本の川筋になっていきます。娘が小さかった頃はカメを見るために川の横の遊歩道をよく訪れ、甲羅干しているカメに大声を出して驚かし、泳ぎだす姿を眺めては楽しんでいました。川幅も狭くあまり綺麗とは言えない川でしたが、小魚や生き物を狙いにサギが訪れるのどかな川でした。その後「秋篠川源流を愛し育てる会」のボランティアによって約150本の桜が植えられ、春には満開の桜が色鮮やかに咲き誇る

ようになりました。川底も浅瀬と深みを交互に配置し、水の浄化と生き物の溜まり場がバランスよく整備され、自然の力で水が綺麗になりました。植樹された一本一本の桜には寄付者の名前と共に近くの小学生が書いた川柳の札が結ばれています。「秋の川かめの親子が 甲らぼし」「春になり ピンクにそまる あきしのがわ」など川の情景を読んだ句や「川きれい ポイ捨てしない 気をつけや」「川のごみ 他県の海にも 流れつき」など環境問題を意識した句もあります。「たくさんの 生き物守る 秋篠川」は、生物多様性の本質を端的に表現していると感心します。身近の小さな自然ですが、本物に触れると子どもたちの心が豊かになります。

(中村 隆)

能登半島地震緊急支援現地報告

1.5次避難所 石川総合スポーツセンター支援当時の状況と今後について

能登半島地震の災害支援として1週間、1.5次避難所である「いしかわ総合スポーツセンター」に向かいました。この避難所は1次避難所と2次避難所の橋渡しを目的として設置されたもので、石川県が運営を行い、YMCAは石川県のサポートアドバイザーとして働きをもちました。他にも医療や介護、2次避難所の紹介など、多くの団体が支援に入っていました。

ニュースではある程度順調に避難受け入れが進んでいるイメージですが、高齢の避難者を受け入れることのできる施設がすぐ埋まってしまう、2次避難できない方が1.5次避難所に長期滞在している現状があります。避難者が滞在する期間は2~3日を想定していたので、高齢化・長期化に伴う問題に直面していました。また支

援団体も今後縮小していく事が予測されるためその役割を担う人員と団体の調整が必要です。

今後も各県のYMCAからサポートを継続し、募金を集めることで支援を続けていきます。

(現地支援スタッフ 小島 陽、福田 樹)



維持会員感謝・ご寄付感謝 (2024年1月21日~3月19日)

維持会員(継続)

真鍋 孔透 齊藤 典子 加藤 朱美 瀬口 昌久 武田 尚子 相馬 静香
三牧 勉 山村 喜久 下村 徹嗣 下村 展子 深谷 聡 小林 純子

寄付金・募金 (クリスマス献金)

原 寛 渡邊 孝 日本基督教団御器所教会

(能登半島地震緊急支援募金)

杉山 弘時 松尾 恭佑 神野 啓子 原田 望 義井 裕子 木村真智子 和田 芳子 高橋 榮一
小島とよ子 山本 和子 山口 幸子 八木 武志 鷺尾 文夫 渡辺 真悟 荒川 文門 相馬 静香
相馬 朋子 平尾 泉 川口 恵 野村 靖子 西村 清 三牧 勉 小尾 雅彦・昌代
東海ワイズメンズクラブ 東海窯業原料株式会社 オリエンタルビル株式会社 かみさわ保育園
かりやYMCA保育園

早天祈祷会

日時 4月2日(火)
7:45~8:30
会場 名古屋YMCA5F
チャペル
奨励 日本基督教団
東海教会
和田 芳子 牧師

ワイズコーナー 4月例会の予定

名古屋	4月 9日(火) 19:00~20:30	卓話 「子どもが「助けて」と言える社会をめざして」 子どもの虐待防止ネットワーク・あいちCAPNA理事 山本秀樹氏	名古屋YMCA
名古屋東海	4月11日(木) 18:45~	卓話 「相続で遺族が困ること」「終活について」 株式会社ノーサイド取締役 堀井義明氏、高松聡子氏	ラ・スースANN
名古屋 グランパス	4月 3日(水) 18:00~	卓話 「未定」	南山ファミリー YMCA

お問い合わせ

名古屋YMCA 052-757-3331
YMCAこひつじ保育室 052-757-5530
南山ファミリーYMCA 052-831-6968
南山幼稚園 052-831-8271
神沢ファミリーYMCA 052-879-6300
YMCAかみさわ保育園 052-879-6222
名古屋YMCA日本語学院 052-531-0077
発達サポートYMCAつるさと 052-823-2021
かりやYMCA保育園 0566-62-8227



<https://nagoyaymca.org>

名古屋YMCA 使命

「名古屋YMCAは、キリスト教精神に基づき、すべての人びとに、生涯にわたる学習の場と、社会参加の機会を提供し、相互の交わりと連帯を通して、共に生きる世界の実現を目指します。」

2024年度聖句

「見よ。なんとという幸せなんとという楽しさだろう。兄弟たちが一つとなってもに生きることは。」 (詩編133篇1節)